

H20年度総合評価(笠原振興課、市民文化課、緑化公園課、教育総務課所管施設)

施設名	笠原中央公民館	多治見市図書館笠原分館	笠原運動公園	笠原体育施設
指定管理者名	(財)文化振興事業団	(財)文化振興事業団	(財)文化振興事業団	財団法人 文化振興事業団
指定期間	3年(H20/4/1～H23/3/31)	3年(H20/4/1～H23/3/31)	3年(H20/4/1～H23/3/31)	3年(H20/4/1～H23/3/31)
設置目的	地域住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする施設。	図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設。	市民の健康の増進を図るための運動場等。	市民の体育、スポーツ及びレクリエーションの振興を図り、もって市民の心身の健全な育成に寄与することを目的とする。
報告書類等の提出状況	良好	良好	良好	良好
運営・利用状況	利用状況	期待以上	良好	期待以上
	市事業の実施	良好	良好	良好
	自主事業	期待以上	良好	良好
施設管理状況	施設管理	良好	良好	良好
	備品管理	良好	良好	良好
	その他管理	良好	良好	良好
収支状況(円)	総収入			120,676,471
	内利用料金収入			9,982,130
	内指定管理料			105,118,000
	支出			116,775,473
	収支			3,900,998
市民利用者の声の反映	良好	良好	良好	良好
全体的評価	多彩な事業を展開し、以前まで中央公民館を利用しなかった者を利用者として取り込んでおり、裾野の拡大につながっている。 ロビーコンサート、ギャラリー展示等利用者数を算出できない事業を多数開催しているため、実際の利用者は、本総合評価書に記載する利用者数よりも多い。 積極的に修繕、備品購入を行っており、利用者の安全性、利便性が向上した。 利用者の要望、苦情に対する対応が早くて確である。	貸出人数、貸出冊数ともに平成19年度と比べて増加した。 平成20年度は蔵書の整理を努力して行い、大幅に良くなってきている。 笠原中央公民館との協同での「KASAHARAシネマウィーク」事業や展示等を実施した。	概ね良好である。	指定管理者として利用者へのサービスを第一に考え、市民ニーズの把握に努め、ニーズにあった事業の展開に心掛け、苦情にも真摯に対応しており、利用者からの評判も良い。また、職員研修も積極的に行っており、利用者とのコミュニケーションにも努めている。 指定管理者に移行し、利用者、利用率、利用料収入等も増加している。 大会時の体育館利用者の昼食場所として公民館施設を貸し出し、評判もよい。 修繕についても、指定管理者として利用者へのサービスを第一に考え対応が早い。
利用人数・前年度比増減率	延べ37,516人 (前年度比7.8%減)	延べ8,865人 (前年度比20.0%増)	-	利用人数:99,645人 (前年度比:16.36%増)
増減の理由	H19までは同一人物が複数部屋を使用した場合重複してカウントしていたため、実際よりも多く集計されていた。H20は実人数でカウントしたため、数値上は減となっているが、実際の利用は増えている。	利用人数、貸出件数ともに増加している。中央公民館との共同事業等による影響があると思われる。	なし。	第1競技場、第2競技場、向島運動広場は件数は増加しているが、利用人数は若干減少している。 その他の施設については、件数、利用人数ともに増加している。 通常、衆議院議員選挙の開票会場は総合体育館になるが、選挙の動向がはっきりしなかったため、利用できるかどうかかわからず、総合体育館から笠原体育館へ利用者が移動したことが考えられる。 総合体育館の第1競技場が1月、2月工事のため使用できず、今まで総合体育館を利用していた方々が笠原体育館を利用したと考えられる。